

スクールカウンセラー便り

平成 27 年 9 月

山田 叔子

「いじめ」を考える

私たちはたえず前に進むことを求められ生きています。順調な時には立ち止まって考えることもなく毎日が過ぎ去ります。ところが、思春期の頃になると、小さかったころには特に考えもしなかったことが気になり始め、この先自分はいったいどうなっていくのだろうかと不安で眠れなくなることもあります。さらに、自分と相手とを比較して落ち込んでみたり、思いがうまく伝わらずに誤解が生じることも増えてきます。「どうしたら他の人とわかりあえるのか」「どうすれば仲良くできるのだろうか」と悩み、真剣に考えている人もたくさんいるのではないのでしょうか。

～みんな、いろんな思いを抱えて生きている～

たくさんの人が集まり生活する中では当然思い通りに行かないことが増えてきます。

♪「・・・人生のこと あまりにも問題ばかり起きるから 難問解決プログラムなのかと思っていけれど・・・」
（「プレゼント」より抜粋 SEKAI NO OWARI 作詞作曲）

今、中学生の間で話題になっている SEKAI NO OWARI 作詞作曲の「プレゼント」が共感を呼んでいます。

この歌では、誰かの「(あの子) 嫌い」という言葉に同調して、自分も「嫌い」と言ってしまうと身に覚えのあるフレーズが胸に突き刺さります。私たちは生きていく中で、自分のことを分かってもらい難しさや、他の人のことを理解することの難しさに出会います。「私はこうしたいからわかってよ!」と訴えても、相手にもそれぞれの思いがあるために「私はそうは思わない」と言われ、悲しくなることもあります。同じことを体験してもそれぞれ感じ方はみな違ってきますから、そもそも『人と人が分かりあえる』ことはすこぶる難しい問題なのです。

“だから仕方がないじゃないか”とあきらめてしまっただけでは、問題は解決されません。こうなってくると、私たちは、少し見方を変えて考えてみるが必要になってきます。

～自分は大切な存在、相手も大切、そして相手も自分を大切にしてくれる～

これは、“自分だけが良ければそれでよい”ということではないということです。

自分は大切な存在であると同時に、相手も大切な存在なのだということ。
そして、相手も自分を大切にしてくれるという関係の中で私たちは安心して自分らしく暮らしていくことができるのです。

みなさんは、「**基本的人権**」という言葉を知っていますか？

すべての人が生まれながらにして誰もが持つべき権利であり、誰からも尊重され、大切に
してもらふ権利と言われています。(よってたかって、一人を無視したら悲しむとわかって
いてやるいじめは、その人の存在そのものを踏みにじる卑劣なことなのです)

つまり、「わかりあう」とは、お互いを“尊重していく”ことだということが見えてきます。
お互いを認め、許し合って生きていくということを心にとめておくことが大切になってき
ますね。

「人にやさしいことは、自分の実力の印です」

(引用一子どもの難問一中央公論新社、渡辺邦夫)



相談日 (毎週月曜日 10:00~16:00) ※ 祝日の関係で曜日変更があります

9月	14日	25日(金)	28日	
10月	9日(金)	15日(木)	19日	26日
11月	2日	9日	16日	30日
12月	7日	14日	21日	

